

【広島市消費者物価指数】

1 平成22年11月の動向

- 広島市総合指数（100.2）は前月比で4か月ぶりの下落。前年同月比は前年と同水準を含めて20か月ぶりの上昇。
- 生鮮食品を除く総合指数（100.0）は前月比で3か月ぶりの下落。前年同月比は20か月連続で下落。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（98.0）は前月比で同水準。前年同月比は20か月連続で下落。

2 総合指数、生鮮食品を除く総合指数、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	100.2	▲0.3	0.1
生鮮食品を除く総合指数	100.0	▲0.1	▲0.6
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	98.0	0.0	▲0.9

3 前月からの動き

～被服及び履物が上昇。食料、教養娯楽は下落。～

(1) 10大費目の動き

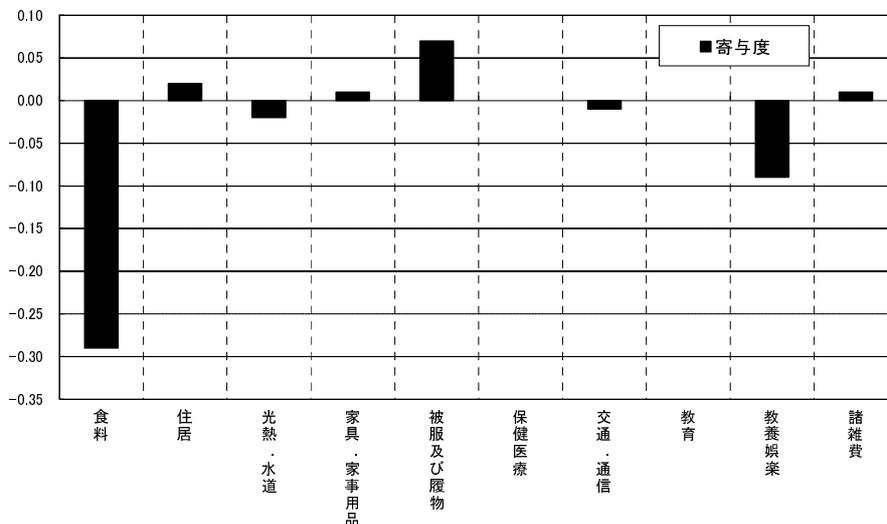
	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	100.2	103.8	99.9	106.1	79.7	109.2	98.2	98.2	93.5	92.6	107.9
前月比 (%)	▲ 0.3	▲ 1.0	0.1	▲ 0.3	0.3	1.3	0.0	▲ 0.1	0.0	▲ 0.9	0.1
寄与度	▲ 0.3	▲ 0.29	0.02	▲ 0.02	0.01	0.07	0.00	▲ 0.01	0.00	▲ 0.09	0.01

(参考) 主な要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：野菜・海藻（前月比 ▲3.8%，寄与度 ▲0.11）等

被服及び履物：洋 服（前月比 2.4%，寄与度 0.06）等

図1 10大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したものの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
項 目 (主な品目名)	前月比	項 目 (主な品目名)	前月比
洋服 (婦人上着 等)	2.4%	野菜・海藻 (ほうれんそう 等)	▲3.8%
設備・修繕維持 (温水洗浄便座 等)	0.7%	果物 (バナナ 等)	▲8.7%
シャツ・セーター類 (婦人セーター 等)	0.5%	教養娯楽サービス (テレビ [薄型] 等)	▲1.0%
油脂・調味料 (食用油 等)	1.1%	肉類 (牛肉 [国産] 等)	▲1.4%
酒類 (清酒 等)	0.5%	魚介類 (ぶり 等)	▲1.3%

4 前年同月からの動き

～食料、諸雑費等が上昇し、教育、家具・家事用品が下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	0.1	1.5	▲0.3	3.0	▲6.5	0.6	0.4	0.1	▲11.8	▲1.6	6.2
寄与度	0.1	0.39	▲0.05	0.20	▲0.20	0.03	0.02	0.01	▲0.60	▲0.16	0.39

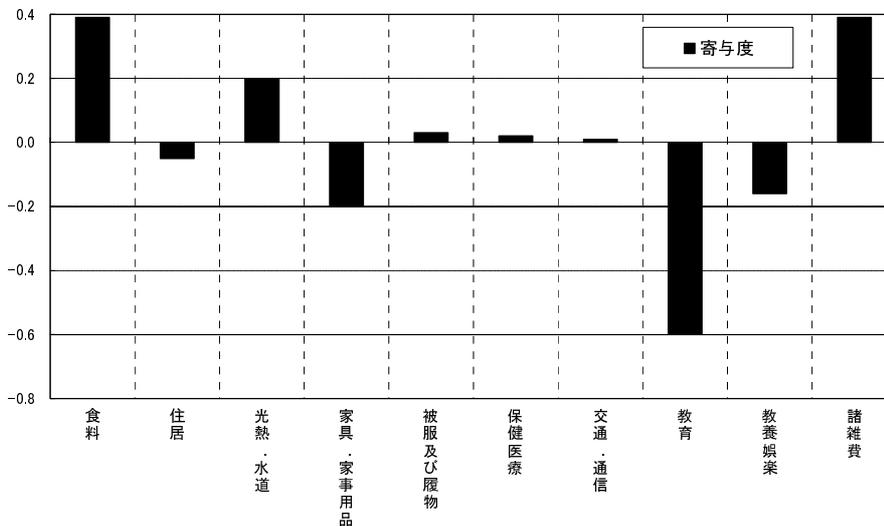
(参考) 主要要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目

教 育：授業料 (前年同月比▲16.0%，寄与度▲0.59) 等

諸 雑 費：たばこ (前年同月比 38.6%，寄与度 0.25) 等

食 料：野菜・海藻 (前年同月比 14.0%，寄与度 0.33) 等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
費 目 (主な品目名)	前年同月比	費 目 (主な品目名)	前年同月比
野菜・海藻 (キャベツ 等)	14.0%	授業料等 (公立高校授業料 等)	▲16.0%
たばこ (たばこ [国産品] 等)	38.6%	教養娯楽用品 (ペットフード [ドッグフード] 等)	▲5.3%
果物 (キウイフルーツ 等)	32.6%	肉類 (牛肉 [国産] 等)	▲3.8%
他の諸雑費 (傷害保険料 等)	6.9%	家庭用耐久財 (ルームエアコン 等)	▲12.9%
ガス代 (都市ガス代 等)	6.5%	家賃 (持家の帰属家賃 [非木造中住宅] 等)	▲0.5%